

丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

市内で活動する大学の支援に取り組む

鈴江 瞭平さん vol.55

経歴：徳島県出身。東京の商社が北海道で運営する牧場で乳牛や羊の飼育を担当。羊の飼育と丹波栗生産の両立を志し、丹波市へ移住。
任期：令和5年4月～



昨年4月に丹波市に来てから早くも一年近くが経とうとしています。今年度は主に、大学が丹波市内で実施するフィールドワークへのサポートや情報収集、発信を行ってきました。私が把握するだけでも年間で200人以上の大学生、大学教員の方が丹波市を訪れ、各専門分野でフィールドワークや研究を実施しています。外部の専門家や多世代との交流、協働が市内各地で起きることは将来を考える上で重要だと考えています。

私は活動内容や成果を丹波市や大学の方に知ってもらうことが、丹波市と大学のより多様な連携のきっかけになると考え、定期的にFacebookで情報を発信しています。どんな

かわり方ができるかを知ること、地域や大学から新たに「一緒にやってみたいこと」が生まれて欲しいと思います。そうしたアイデアが適切な人や場所につながるができるようサポートしたいと考えています。

また、この1年間私自身が丹波市のことを知るために多くの方にお話を聞かせていただき、こちらに来る前には知らなかった魅力的な方々と出会うことができました。各地域のイベントに参加したり、丹波栗栽培に取り組んだりと忙しくも楽しく過ごすことができました。ここにいることを楽しみながら、今後も丹波市の魅力を様々な形で伝えたいと思っています。



Facebook

市長・林時彦の 時を駆ける

卒業式によせて



先月、水上西高等学校の卒業式に出席してきました。式では答辞を述べる生徒とともに、生徒の数人が涙ぐむ場面もあり、聞いていた私も思わず涙が出そうになりました。「輝く地域の星となれ〜一人一人が主人公〜」というスローガンを胸に学校生活で学んだ知識、経験を糧に素晴らしい人生をめざしてほしいと思います。

水上高等学校、柏原高等学校からも案内をいただき卒業式に出席しました。丹波市内の県立高等学校を卒業する生徒達の前途を祝福すると共に「帰ってこいよ」と声をかけていきたいと思っています。

市内の人口は年々減少しています。そのような状況下で、未来を担う若者が、夢や希望を持ち、胸を張ってふるさとを自慢できる、そんな魅力的なまちづくりに全力で取り組み、ここに住み続けたい、帰って来たいと思えるような、そんな丹波市を私たちもめざします。

また、3月には丹波市の地域医療を支えてくれる看護専門学校、丹波市の有機農業の後継者を育成する農の学校、各中学校、小学校で卒業式が行われました。小中学校においては、合併により「竹山小学校」となる、二つの小学校「前山小学校」と「竹田小学校」の「閉校式」に出席いたします。本市としましても、子どもたちの新たな教育の場として、竹山小学校がさらに充実した学校となるように尽力していきます。

人生の節目となる卒業式を迎えた皆さんに、私から伝えたい言葉は、「ありがとう」という一言です。卒業する機会に、お世話になった方々、先生、そして何より育ててくださった保護者の皆さんに「ありがとう」と感謝を込めて口に出してください。普段は照れくさくて言えない言葉でも今なら言えると思いますので、是非とも感謝の言葉を届けましょう。

丹波市長 林 時彦